

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 29 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24593217

研究課題名(和文) 地域包括的視点に基づく看護管理学の創出に向けたアクションリサーチ

研究課題名(英文) Action research on nursing administration theory: An integrated community perspective

研究代表者

吉田 千文 (YOSHIDA, Chifumi)

聖路加国際大学・看護学部・教授

研究者番号：80258988

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：ソフトシステム方法論に基づくアクションリサーチ(内山2007)を用いて、人々が最期まで望む地域で安心して暮らし続けられるための新しい看護管理学の中核概念を探索し記述した。中核概念は以下の5つ。
 看護すること：自身や他者を気遣い世話すること。人は皆元来看護する力を有する。地域：人々の重層的関係が存在する複雑な場。元来看護する力が備わる。看護専門職：人々や地域への信頼を基に其々の世界間を行き来でき、状況に合わせて柔軟に役割を変化させて支え続ける存在。専門職連携：目的ではなくより良い実践の結果。地域包括的視点に基づく看護管理：統制ではなく看護力発揮にむけ人々を力づけ共に学習しその仕組みを創ること。

研究成果の概要(英文)：Using action research based on soft systems methodology (Uchiyama, 2007), we explored and described core concepts of nursing administration based on an integrated community perspective.

The following five core concepts were extracted. "Nursing": Engaging in self-care and mutual care by using abilities that are inherent to all people and communities. "Community": An integrated 'Ba' where multi-layered relationships exist and inherent nursing capabilities are cultivated. "Nursing professionals": People who are able to understand different worlds based on trust in the people and community involved, and who change roles flexibly according to the situation. "Inter-professional work": Collaborations which arises through improved practices. "Integrated community nursing administration": Giving up attempting to control people and situations and instead trying to learn alongside them while developing and supporting this learning process.

研究分野：看護管理学

キーワード：地域包括ケア 看護管理学 アクションリサーチ 看護哲学 概念創出

1. 研究開始当初の背景

研究者らは、病院機能の分化と在院日数の短縮化が始まった 1980 年代後半より、退院後の患者とその家族の生活を考えた看護職の支援の必要性を認識し、病院看護、訪問看護、退院支援、ケアマネジメント、公衆衛生看護などの様々な立場で活動してきた。しかし、個の看護師への教育や支援を行っても、退院後の生活を視野に入れた継続看護が行われなかったり、組織としての退院支援や地域連携システムが整わない状況がある。一方で地域には人間としての尊厳にかかわるような不健康な状況で生活している人々がいる。

私たちは、これらの状況を看護管理の問題ではないかと考えた。現在の多くの病院看護管理者は、院内の課題解決に手いっぱい、患者や家族中心の看護の重要性を認識しつつも経営を優先したマネジメントをしている。それは、これまでの看護管理学が、経営学など他領域の理論を看護に適用させたもので、看護することの大切な部分、例えばケアリングなどの価値を反映させたものになっていないためではないかと考えた。また、地域の住民が過酷な状況で療養生活しているにも関わらず、一組織内に焦点を当てたマネジメントを行っており、地域への視点が希薄である。これからの時代は、自施設を地域の一組織として俯瞰的にとらえ、他の組織や地域住民との連携の下で、能動的に役割を果たしていく看護管理のあり方が求められる。しかし、現在の看護管理学はそうした地域を包括的にとらえる視点に立って、看護管理実践を導く理論体系は存在しない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、人々が健康上の問題をもって、住み慣れた地域で、あるいは望む所で、安心して暮らし続けていくための看護管理とはどのようなものか、新しい看護管理学の中核となる概念を探索し記述することである。この中核概念とは、施設や機関を越えて共通する看護管理実践を導く枠組みをいう。

3. 研究の方法

内山(2007)が開発したソフトシステム方法論(以下、SSM)に基づくアクションリサーチを用いた。

アクションリサーチのフィールドは、東京から 100km 圏内にあり人口の高齢化、医師不足の問題が存在する K 二次医療圏である。研究者と看護管理の実践者が話し合うワークショップ(以下、WS)を継続的に繰り返し実施した。研究参加者は、訪問看護ステーション、介護事業所、行政など K 地域の様々な場で実践を行う看護職とその他の職種である。WS では、「地域包括的視点にもとづく看護管理とはどういうことか」についての「思い」を本音で話し合い、そこでの「気づき」を振

り返り、集約させることで、地域が求める看護の考え方、看護管理の中核概念を見出した。

4. 研究成果

(1) 研究のプロセス

1 年目(平成 24 年度): 研究者 WS と研究者-実践者合同 WS を繰り返した。

2 年目(平成 25 年度): 研究者-実践者合同 WS を行うにあたって K 地域を生活医療状況によって a 地区、b 地区、c 地区の 3 つの小地区に分け、それぞれの地区でのミニ WS と研究者 WS を繰り返した。最後に K 地区全体の研究者-実践者合同 WS をおこなった。

3 年目(平成 26 年度): 研究者 WS を行い、2 年目までの「気づき」をもとに「地域包括的視点に基づく看護管理学」の中核概念を精練させた。

全 WS 回数は 37 回、その内、研究者 WS 18 回、ミニ WS を含む研究者-実践者合同 WS は 9 回で、WS に参加した研究参加者数はのべ 150 人であった。

(2) 地域包括的視点に基づく看護管理学の中核概念

WS を通して見出された「地域包括的視点に基づく看護管理学」の中核概念は、「看護すること」、「地域」、「看護専門職」、「専門職間連携」、および「地域包括的看護管理」の 5 つである。以下に述べる。

「看護すること」: 自身や他者を気遣い世話することであり、専門職だけではなく全ての人が行う行為である。人は元来看護する力を持っている。

「地域」: 単に物理的空間だけではなく、世代・近隣・隣などの人々の重層的な関係が存在する複雑な「場」であり、元来看護する力が備わっている。

「看護専門職」: 人々や地域への信頼とともに、個々に異なる世界観と専門職の世界観の間を行き来でき、個人の価値観・ペース・心身の状況に合わせて自らの役割を柔軟に変化させ、支え続けていく存在である。

「専門職連携」: それ自体が目的ではなく各専門職者のより良い実践の結果として生まれるものである。

「地域包括的な視点に基づく看護管理」: 地域は多様さと複雑さが存在する「場」であり、計画やルールでは対応できない出来事が多い。そのため厳密な計画や役割に基づく活動よりも、個人がその時、その状況でよりよいあり方に向けた方法を学び、対応していくことが重要で、ルールを越えた創造的挑戦的な行動も必要である。したがって、地域包括的視点に基づく看護管理とはある目標を決めそれに向けて人々を統制することではなく、地域の人々と看護専門職、そして「場」の持つ看護の力が発揮されるよう、人々を力づけ、ともに学習し続けること、学習し続ける仕組みを創ることである。

(3) 実践者(研究協力者)に生じた変化
WSへの参加を通して、研究者だけでなく研究参加者にも学びが生じた。看護専門職としての意識の変化が生じ、所属組織を超えて他の組織の関係者と交流する、主体的に地域を知ろうと病院を出る、住民として近隣の人々と相互作用をとるといった行動面の変化が現われた。

(4) 採用した方法論について

WS参加者には、研究者と実践者、病院看護師と病院外看護職、看護職とそれ以外の専門職、専門職と住民という相違があった。これらの多様な背景をもち多様な価値観をもつ人々が率直に話し合い学びあうために、「リッチピクチャー」や「思いのモデル」を用いるSSMに基づくアクションリサーチは極めて有用であり適切であった。

(5) 研究成果の意味と今後の課題

地域包括的視点に基づく看護管理学を探索したSSMに基づくアクションリサーチは、これまでの研究者らの「看護」や「専門職」に関する枠組みを問い直し再定義するプロセスであった。地域包括的視点に基づく看護管理は、看護=ケアの原点に立ち戻り、その目的は人々が元来有する力を活かすこと、そしてその方法は人々と人々が自発的に生み出す創造に信頼を築き、人々と共に学び続けることであることが明確になった。今後は、この中核概念を現実の看護管理の現場で、具現化する方法について検討する必要がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

(1) 吉田千文.(2015). 地域包括ケアにおける在宅看護の役割. 日本在宅看護学会誌. 3(2). 印刷中.

(2) Yoshida C., Yamada M., Ito R., Amamiya Y., Kamei Y. and Eguchi Y.(2015) Integrated Community Nursing Care: Reorientation of Perspectives by Japanese Researchers. Collaboration Action Research Network BULLETIN. 印刷中

(3) 吉田千文.(2015). 「地域包括的視点に基づく看護管理学」を探索する. 看護. 67(2). 076-081. ほか

[学会発表](計5件)

(1) 清水日佐愛、吉田千文: '地域で看護する'とは、ということか アクションリサーチからの学び. 多可町医療・介護・福祉(医療・ケア)合同研究集会. 多可町中央公民館(兵庫県多可郡) 2014年11月29日.

(2) Yoshida C., Yamada M., Ito R., Amamiya

Y., Kamei Y. and Eguchi Y.: Integrated Community Nursing Care: Reorientation of Perspectives by Japanese Researchers. Conference of Collaboration Action Research Network(Gateshead, UK. 1st. Nov. 2014)

(3) 吉田千文, 山田雅子, 伊藤隆子, 雨宮有子, 宇都宮宏子, 江口優子, 鈴木聡: 指定インフォメーション・エクスチェンジ アクションリサーチを用いて探索する地域包括的視点に基づく看護管理. 第18回日本看護管理学会学術集会. ひめぎんホール(愛媛県松山市) 2014年8月29日.

(4) 吉田千文, 山田雅子, 伊藤隆子, 雨宮有子, 亀井縁, 宇都宮宏子, 江口優子, 丸田恵子: 地域包括的視点に基づく看護管理学の創出に向けたアクションリサーチ. 第8回日本アクションリサーチ協会シンポジウム. 大東文化会館(東京都板橋区) 2014年3月2日.

(5) 吉田千文, 山田雅子, 伊藤隆子, 雨宮有子, 宇都宮宏子, 亀井縁, 鈴木聡: 指定インフォメーション・エクスチェンジ「地域で看護するとはどういうことか?」について学びあう. - アクションリサーチを用いて探索する地域包括的視点に基づく看護管理. 第17回日本看護管理学会学術集会. 東京ビッグサイト(東京都江東区) 2013年8月24日.

[図書](計0件)

[産業財産権]
出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉田 千文 (YOSHIDA, Chifumi)
聖路加国際大学看護学部(教授)
研究者番号: 80258988

(2)研究分担者

- ・山田 雅子 (YAMADA, Masako)
聖路加国際大学看護学部 (教授)
研究者番号 : 30459242
 - ・伊藤 隆子 (ITO, Ryuko)
順天堂大学看護医療学部 (教授)
研究者番号 : 10451741
 - ・雨宮 有子 (AMAMIYA, Yuko)
千葉県立保健医療大学健康科学部 (准教授)
- 研究者番号 : 30279624
- ・亀井 縁 (KAMEI, Yukari)
日本赤十字看護大学看護学部 (助教)
研究者番号 : 90624487

(3)連携研究者

なし

()

研究者番号 :